

# 立山中高年大量遭難事故

**立山中高年大量遭難事故**（たてやまちゅうこうねんたいりょうそうなんじこ）とは、1989年10月8日午前中から夜間にかけて立山一帯が悪天候に見舞われ、立山三山を縦走中のパーティ10名が遭難しうち8名が低体温症で死亡した事故である。それまでは大学山岳会や社会人山岳会の登山者による遭難が中心だったが、中高年の登山ブームにより未熟な登山者が増加したことにより発生した最初の大量遭難とされる。

## 計画

パーティーは京都や滋賀の税理士を中心とした10人のグループで、毎年秋に定期山行を行っていた。このうち比較的経験のある二名がスケジュールを立てた。旅程では10月7日の夕方に滋賀県を出発。富山駅近くの駐車場で仮眠をとった後にケーブルカーとバスを利用し室堂に向かい、ここから出発となっている。

- 登山一日目（10月8日）：富山駅 - （ケーブルカー） - 美女平 - （高原バス） - 室堂 - 一ノ越 - 雄山 - 大汝山 - 富士の折立 - 真砂岳 - 別山 - 別山乗越（剣御前小舎）で宿泊。
- 登山二日目（10月9日）：剣岳に往復するグループと周辺を散策するグループに分かれ行動、合流後に雷鳥平（ロッジ立山）に移動し宿泊。
- 登山三日目（10月10日）：雷鳥平 - 室堂 - （高原バス） - 美女平 - （ケーブルカー） - 富山駅

## 10月8日

小笠原諸島付近に台風25号があり、その影響で一時的に冬型の気圧配置となることに加え、中国から寒気団が南下し日本海側の山では大荒れの予報が出ていた。これに反し早朝は快晴となった。

- パーティーは午前8時45分ごろに出発。既に天候が悪化し始め、一ノ越山荘到着時には既に吹雪になっていた。休憩後に吹雪が強まる中出発したが、疲労の出た人間が遅れ始め2グループに分裂。雄山到着時には標準コースタイムの倍近い時間がかかる状況になっていた。ここで既に疲労の為食欲不振やめまい、痙攣を起こすメンバーも現れたが、この時点で中止の判断は下されず、昼食後に登山は続行された。
- 午後1時半に雄山を出発。大汝山付近で再び2グループに分裂し、後のグループ6人はばらばらになり、通常なら雄山から3時間程度で宿泊予定地に着くところが2時間経って半分程度までしか進めない状況であった。この時後ろからやってきた別パーティーの2名が心配し声をかけるが「1時間くらいで下ろしますから」と救助要請は出さなかった
- 一方、先行した4人は雷鳥平へ下山する大走りコースに間違っ入り込んだ後に引き返し、分岐点で後続の6人を待つことになる。全員が集合するまで40分ほどかかり、この時点で1名の意識が混濁し自力歩行できない状況に陥った<sup>[2]</sup>。ここでようやく救助要請を出すことを決定する。
- 午後5時、体力が残っている2名が最寄の内蔵助山荘に向かうが、吹雪で道を見失ったため剣御前小舎に目標を変えて進行。ところが日没と吹雪でまたも進行方向を見失い午後8時30分に別山の山頂に到着。ここでピバークする羽目になる。

